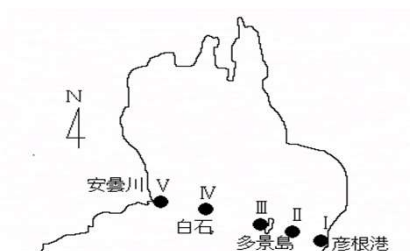


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和8年7月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和8年7月13日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場池先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

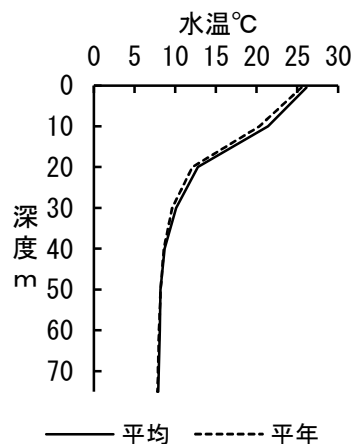
DO(溶存酸素濃度)は2016年～2025年(平成28年～令和7年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 7月平均値 5.1m 平年値 5.9m

2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	7月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	26.1	25.5	+0.6
10	21.4	20.3	+1.1
20	12.8	12.1	+0.7
30	10.1	9.6	+0.5
40	8.7	8.6	+0.1
50	8.2	8.2	+0.0
60	8.1	8.0	+0.1
75※	7.9	7.8	+0.1

※7月平均値75mの値は73mの数値



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
6月下旬	22.7	22.3	+0.4
7月上旬	23.9	23.9	+0.0
7月中旬	27.2	25.2	+2.0

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	7月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	13.4	14.7	-1.3
10~20	4.9	5.4	-0.5
20~40	0.7	1.9	-1.2
40~75	0.4	0.6	-0.2

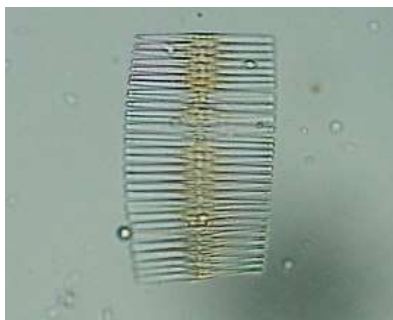
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(5%中性ホルマリン固定。植物プランクトンは地点Iと地点IV、動物プランクトンは全地点)

植物プランクトンについては、両地点とも*Fragilaria crotonensis*(オビケイソウ:珪藻)の細胞数が最も多かった。

動物プランクトンについては、全地点でカイアシ類のノープリウス期幼生の個体数が最も多かった。



Fragilaria crotonensis



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L) 多項目水質計による測定値

深度 (m)	7月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	9.2	114.3	8.6	107.3	0.6	(+7.0)
10	8.7	97.1	9.6	108.3	-0.9	(-11.2)
20	8.5	80.8	8.7	81.7	-0.2	(-0.9)
30	9.5	84.5	9.5	84.5	0.0	(+0.0)
75※	6.6	56.1	6.5	55.3	0.1	(+0.8)

※7月平均値の75mの値は73mの数値